

会報

No. 76

平成20(2008)年8月15日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内
TEL (075) 762-4655



就任のあいさつにかえて 今、求められる『京図連協総合力』

京都府図書館等連絡協議会会長
八幡市立八幡市民図書館館長

仁科 晴夫

一九七六年、加盟館二十二館から始まった京図連協も現況は加盟館四十九館、年間資料購入予算五億千万円を超え、蔵書冊数は六百二十万冊をしのぐにいたりました。この数字をどうみるか。図書館機能のポテンシャルとして考えてみる。

今日、住民の情報・資料要求に対して、単館で十全に 대응することができない図書館は存在しない。それほどまでに図書館機能に対しての要求は多様で、期待されていると思われる。町にただあるだけの図書館から、社会基盤として役に立っているかどうか、税金投入の効果を上げているかどうか問われるまでになっています。もちろん、急にそれを求められ始めたのではなく、そもそも図

書館機能として備えられていたものが、徐々に世の中の仕組みや事情の変化と共に顕在化したにすぎないのだと思います。

わたしたちは対応しました。まず総合目録の作成、それを基にした資料の相互利用が生まれました。やがて物流問題のひとつの解決策として自治体を越えた広域個人利用へと進むでしょう。

更に分担収集・分担保存や地域郷土の情報・資料の責任収集・保存も課題として検討することを求められています。

加えて、家庭のパソコンで居ながらにして大量の情報が入手でき、携帯端末(電話も含む)の進化により、個と手の中に進入してきているデジタル情報への対応は、現状では全くの「手付かず」と言い切ってもよいのではないのでしょうか。もちろん、各図書館が開設しているホームページはもうめずらしくなくなりまし。しかし、「図書館ホームページ三・〇」とでも呼ぶような進化が求

められていないでしょうか。もっと果敢にデジタル情報を図書館に取り込み、情報格差を埋める機能を備える必要があります。

時代に合致した機能を備え、住民の生活に役立つ図書館であり続けるためには、人の育成も重要です。前述したように、生活の中に情報はあふれています。少ないよりはいいのかも知れませんが、気をつけていないと大切な生活情報を見逃し、聞き逃してしまいます。そこで情報・資料取得へのアドバイスやコーディネート(場合によってはカウンセリングも)が求められます。アドバイザーやコーディネーターは人があらず。コンピュータでは、痒いところに手がとどかない。図書館員という人が、人力が今まで以上に必要なのです。

さて、あれこれ挙げてきました。多様な資料への対応、底なし沼のようなデジタルコンテンツ、図書館員の専門性の向上。どれもこれも簡単に片付くものではありません。ここで四十九館のポテンシャルを思い出してください。今こそ「京図連協の総合力」で各図書館の課題解決を図る時なのです。京図連協のあらたな存在意義が明らかになりました。「京図連協三・〇」に進化するために皆さんの力をお借りします。

平成二十一年度

京都府図書館等連絡協議会定期総会開催

平成二十一年度京図連協定期総会が、平成二十年四月二十五日（金）午後一時三〇分から、府立図書館において開催されました。

開会行事として、仁科晴夫会長のあいさつ、金箱秀俊国立国会図書館関西館次長、水江尚利京都府教育庁指導部社会教育課長の来賓あいさつ、松田定京都府立図書館長の歓迎あいさつがありました。

その後、平成二十一年度の理事紹介及び事務局紹介があり、議事に入りました。

総会の後には、図書館業務に永年勤続し、その功績を認められた七名の方及び東京都北区主催の第六回北区内田康夫ミステリー文学賞大賞受賞の山木美里様の表彰、並びに、『小中学校図書館との連携』〜斐川町立図書館の六年間の取り組みについて〜をテーマに、福岡県宮若市教育委員会社会教育課（元斐川町立図書館長）白根一夫氏と島根県斐川町立図書館副主任（司書）学校図書館支援担当奥野吉宏氏から御講演をいただきました。（詳細は、次ページ）

◇ 総会議事

総会は、奥西安己京田辺市立中

央図書館長を議長に選出し、加盟館四十九館中、出席二十二館・委任状二十四館・欠席三館により、総会が成立していることを確認した後、議事が開始されました。

事務局から、平成十九年度会務及び決算報告がされました。監事の五十嵐幸夫京都市西京図書館長から監査報告をいただき、会務報告・決算報告ともに承認されました。

その後、平成二十一年度事業計画（案）及び予算（案）が提案され、それぞれ承認された後、協議と採決が行われ、全議案の承認が確認されました。

また、山崎健藏京都市北図書館長、小山豊嗣久御山町立図書館長を監事とすること、中西進京都市中央図書館長、井口和起京都府立総合資料館長、松田定京都府立図書館長を顧問とすることが、それぞれ承認され、総会は閉会しました。

◇ 会務報告・決算報告

会務報告では、京都市図書館における携帯電話による予約サービスの開始、K-Libnetの横断検索館の増加など図書館の動向や相互協力の増加が報告されました。

次に、各専門委員会の活動として、研修研究委員会の三回の実務研修会について、相互協力委員会の相互協力委員会の開催について、広報委員会の三回の会報発行について、それぞれ報告されました。

また、その他の事業として、読書ボランティア養成支援事業の主催事業及び共催事業について報告されました。

決算報告では、各専門委員会委員への旅費の支出等が報告されました。

◇ 事業計画・予算（案）

事業計画では、K-Libnetを利用した相互貸借の円滑な運営と大学図書館等との連携に向け努力すること、読書ボランティア養成支援事業の委託による子どもの読書活動を進めることなどが提案されました。予算では、研修研究事業費の増額などの提案がされました。

◇ 表彰者一覧（敬称略）

- 丸尾 泰代（京都市右京中央図書館）
- 杉丸あゆみ（京都市岩倉図書館）
- 山崎 暁（京都市山科図書館）
- 山内 卓（京都市久我のもり図書館）
- 福本美樹子（宇治市東宇治図書館）
- 澤村 久恵（京都府立図書館）
- 北岡 伸也（京都府立図書館）
- 山木 美里（城陽市立図書館）

受彰者の皆さま、おめでとうございました。



定期総会講演

「小中学校図書館との連携」

〜斐川町立図書館の六年間の取り組みについて〜
福岡県宮若市教育委員会社会教育課（元斐川町立図書館長） 白根 一夫
島根県斐川町立図書館副主任（司書） 学校図書館支援担当 奥野 吉宏

斐川町には平成十二年に着任し、教育委員会の図書館準備室において、三人のスタッフでスタートしました。

最初一年間で建設基本計画を作ることに取り組みまして、町民、図書館関係者及び一般公募も含め十人以上の方で検討委員会を立ち上げました。

基本計画を検討するときに、学校の図書館との連携や学校図書館をもっと充実すべきではないかという意見があり、図書館準備室としても、一つの大きな柱と考えていましたので、学校図書館との連携を検討しました。

斐川町は、教育委員会全体がワンフロアでしたので、学校教育課員や課長とも、毎日同じフロアで仕事をしていくことができました。また、校長会とか教育委員会にも出席をしておりまして、学校図書館との連携を進めていく上では、大変いい環境だったと思います。

もう一つは、検討委員会の中で、学校図書館を考える会・近畿の代表の北村幸子さんに講演をしていただいたのを手がかりに、基本計画の中に学校図書館との連携をあげ、「学校司書の配置に向けて検討すべきである。」と盛り込みました。

学校の図書館で各種会議が開かれることが多いのですが、学校図書館そのものを、調べ学習をする、子どもたち同士が話しできる、学校司書や先生方と協力して子どもたちが楽しめるようにすべきではないか

と考えまして、平成十四、十五年に図書館準備室の臨時職員を増員するかとたちで学校司書をモデル校二校に配置したところ、子どもたちが楽しく学校図書館を使うようになりました。

学校現場の要望よりも、図書館が先行して実現しました。実際に学校図書館の現実を見られると、今度他の学校の先生方から、自分の学校にも派遣をしてくれというような声が出て、文科省の委嘱事業を活用しながら、全校に学校司書の配置を実現することができ、小中学校六校で、年間六万冊以上の貸出をすることができるようになりました。

斐川町の取り組みがベストとは思っていません。一つの例として、みなさまの参考になればと思っております。

それではかわりまして、斐川町立図書館の奥野がお話します。

島根県簸川郡斐川町は、人口二万八千人余りの散居村で、家が点在しております。

斐川町立図書館は、平成十五年十月に開館して、この秋に五周年になります。蔵書冊数は約十四万五千冊、常勤職員数は、正規職員五名(うち司書有資格者三名)、臨時職員六名(全職員有資格者)の計十一名です。

学校は町内に小学校が四校、中学

校が二校あり、全校で司書教諭の発令がなされています。

昨年度の学校図書館の支援体制ですが、一点目は、三名の臨時職員を学校司書として週四日、三校に派遣していました。派遣方式を取ることにより、学校に学校司書の必要性を認知してもらえた、学校司書の支援・相談窓口が明確化が図れた、ノウハウの共有化が図れたという点で効果があつたと思います。

二点目は、調べ学習支援として、学校図書館ストック資料を別に置くようにしました。また、本の運搬は、必要なときに図書館が学校を巡回して対応しています。

三点目は、読書活動への支援として、図書館職員が各学校、各教室まで出かけてブックトークなどの活動をしていきます。

四点目は、町立図書館と学校図書館のシステムを一体管理しています。学校図書館用のサーバも町立図書館に置き、役場の専用線を通じて、貸出返却等の処理を行います。また、WEB-OPACでは、町立・学校両方の資料を検索することができます。そして、学校図

書館のパソコンからは、町立図書館へ予約やレファレンスの依頼もできます。

また、町立図書館では、学校図書館の図書費の管理、環境整備などにも対応しています。

今年度は、厳しい財政状況により、学校司書の配置がなくなり、支援担当が学校図書館を巡回していますが、学校司書の復活などを今後の課題として検討していく必要があると考えています。



読書ボランティア養成支援事業

～読書ボランティア養成口座の開催～



京都府図書館等連絡協議会は京都府教育委員会から委託を受け、平成二十年度読書ボランティア養成支援事業を実施します。

この事業は、府内における子どもの読書活動の一層の推進を図るため、学校や図書館等で活躍する読書ボランティアの拡充を図ることを目的としています。

内容は、読書ボランティア養成講座の開催及び修了者に対する府や市町村などのボランティア登録の紹介です。

実施は、京都府図書館等連絡協議会が主催するほか、市町村立図書館等と共催で実施をします。

主催事業については、共催事業における養成講座の開催地域を考慮

し、南部地域での開催に向けて、現在、研修研究委員会において、講座内容の検討が行なわれています。

また、市町村図書館等との共催事業については、四月中旬に京都府図書館等連絡協議会加盟館あてに要項等の通知を行ったところ、九館から申請があり、六月上旬に以下の九市町図書館等との共催を決定したところとです。

講座については、これまでから市町図書館等が主催してこられた事業の充実を図った講座や、新規に取組をされる講座があります。内容は、ストーリーテラーの養成や実技を取り入れた講座など、工夫を凝らした内容になっています。

★共催実施市町立図書館

- 宇治市中央図書館
- 八幡市立八幡市民図書館
- 木津川市立中央図書館
- 久御山町立図書館
- 精華町立図書館
- 南丹市立中央図書館
- 綾部市図書館
- 福知山市立図書館中央館
- 与謝野町立図書



夢ふくらむ図書館

京都市右京中央図書館 六層目中回廊オープン!



★過去最大の来館者数・貸出冊数

地下鉄東西線「太秦天神川」駅からすぐの右京区の複合施設「サンサ右京」の三階に京都市右京中央図書館がオープンしました。

初日には、約三千八百人の来館者があり、約七千四百冊の貸出がありました。連日、三千人余りの方が本の貸出はもとより、DVDの視聴やインターネットの閲覧を楽しんでおられます。

建設に当たっては市民の意見をふんだんに取り入れ、京都市図書館では最大の床面積で蔵書数は十七万点（計画蔵書数は三十万点）。

★京都市図書館で初めて!

京都市図書館初のものとしては、

「ICタグ」を全蔵書に装備し、十冊の本が瞬時に処理でき、待ち時間の短縮等利用者サービスの一層の向上を図っています。また、相談・調査などのレファレンスサービスを専門に行う「参考調査係」の設置や、利用者がセルフ操作で貸出しの手続きが行える「自動貸出機」、京都に関する資料を集中的に集めた「京都大百科事典ゾーン」、パソコン三十台、DVDプレーヤー十二台、映像配信専用ブース八席が集まる「電子メディアゾーン」、中高生に人気の資料を揃えた「ティーンズコーナー」などです。



京都市右京中央図書館は、IT化時代に対応したサービスと「京都大百科事典的図書館機能」を備えた『新たな図書館づくり』を進めているところです。

★平成二十一年度

京図連協役員体制★

会長

仁科 晴夫(八幡市立八幡市民図書館)

副会長

井上 吉信(福知山市立図書館中央館)

理事

伊藤 勉(宇治市中央図書館)

田中 元美(京都府立図書館)

佛円清太郎(京都市伏見中央図書館)

梅原 武(京都市南図書館)

矢崎久美子(向日市立図書館)

阪口 守(木津川市立中央図書館)

粟路 静夫(南丹市立中央図書館)

塩見 裕(与謝野町立図書館)

松岡 豊美(京丹後市立図書館)

監事

山崎 健藏(京都市北図書館)

小山 豊嗣(久御山町立図書館)

顧問

中西 進(京都市中央図書館)

井口 和起(京都府立総合資料館)

松田 定(京都府立図書館)

事務局(京都府立図書館)

森永 健三(事務局局長)

氏松 昌平(事務局員)

藤本 裕行(事務局員)

是住久美子(事務局員)

★平成二十一年度

専門委員会委員一覧★

◎研修研究委員会

委員長

伊藤 勉(宇治市中央図書館)

委員

齋藤 隆司(長岡京市立図書館)

山本 陽子(宇治市中央図書館)

新築 猛(久御山町立図書館)

尾崎 睦美(京田辺市立中央図書館)

畑本 晶子(木津川市立中央図書館)

岸田 敦子(亀岡市立図書館)

西鉢 朋子(舞鶴市立東図書館)

岡本 知子(宮津市立図書館)

藤原恵美子(京丹後市立峰山図書館)

長尾 浩(京都市左京図書館)

小西 理恵(京都ライトハウス

情報ステーション)

藤原 直幸(京都府立総合資料館)

植本 和秀(京都府立図書館)

◎相互協力委員会

委員長

田中 元美(京都府立図書館)

委員

芦田 穂子(向日市立図書館)

山中真理子(城陽市立図書館)

鈴木 琢也(宇治田原町立図書館)

松井 順香(精華町立図書館)

前原 英子(南丹市立中央図書館)

生駒 彩子(綾部市図書館)

河田美奈子(舞鶴市立西図書館)

瀬戸真由美(与謝野町立図書館)

藤原恵美子(京丹後市立峰山図書館)

小枝 倫子(京都市中央図書館)

合田 淳(京都府立総合資料館)

足立 良子(京都府立図書館)

◎広報委員会

委員長

佛円清太郎(京都市伏見中央図書館)

委員

真下 慶子(八幡市立八幡市民図書館)

小谷 光幸(井手町図書館)

木ノ下典子(福知山市立図書館中央館)

林川 明子(京都市右京中央図書館)

伊東 泰子(京都府立総合資料館)

岡本 博幸(京都府立図書館)

新任図書館(施設) 長紹介

京都市右京中央図書館

京都市伏見中央図書館

同左京図書館

同岩倉図書館

同東山図書館

同西京図書館

同醍醐図書館

同久我のもり図書館

向日市立図書館

大山崎町立中央公民館図書室

井手町図書館

宇治田原町立図書館

木津川市立中央図書館

精華町立図書館

南山城村教育委員会図書室

亀岡市立図書館

京丹波町中央公民館図書室 野間 広和

宮津市立図書館 白石 肇子

京都府立総合資料館 井口 和起

第九十四回全国図書館大会

期 日 九月十八日(木)～十九日(金)

開催地 兵庫県

テーマ

『はばたこう未来の図書館へ』

『元気な兵庫からの発信』

全国公共図書館研究集会

*児童・青少年部門

期 日 十一月六日(木)～七日(金)

開催地 栃木県宇都宮市

テーマ

『子どもたちに生きる力と喜びを』

『読書で拓く未来』

*サービス部門

期 日 一月十五日(木)～十六日(金)

開催地 奈良県奈良市

テーマ 未定

*総合・経営部門

期 日 一月二十二日(木)～二十三日(金)

開催地 愛知県名古屋

テーマ 未定

*近公図研研究会

期 日 未定

開催地 未定

テーマ 未定



第十七回京都図書館大会

日時 平成二十年九月三日(水)

十時二十分～十六時三十分

(受付十時)

会場 同志社大学

寒梅館ハーディーホール

・基調講演

「いま図書館に求められる

新たなウェブ活用戦略」

講師 岡本 真氏

(ACADEMIC RESOURCE GUIDE 編集長)

・事例発表

「もっと図書館を活用してもら

うために」京都大学医学図書館

情報リテラシー教育の取り組み」

京都大学医学図書館 山本 奈美氏

「新しい図書館サービスへの取

組み」

京都市右京中央図書館 参考調査係長

田中せつ子氏

「双方向型広報活動

」利用者をつくる学校図書館」

京都市立東舞鶴高等学校 学校図書館司書

高井 睦氏

・交流協議



専門委員会ニュース

▼ 研修研究委員会 ▲

平成二十年七月三日(木)に京都府立図書館で、平成二十年度第一回研修研究委員会を開催し、今年度の事業計画について、次のとおり立案しました。

☆北部会場☆

平成二十年十月もしくは平成二十一年三月

場所 みやづ歴史の館

内容 魅力ある空間づくり

☆中部会場☆

平成二十年九月～十一月
場所 京都市右京中央図書館

内容 京都市右京中央図書館の見学と利用者とのコミュニケーションについて

☆南部会場☆

読書ボランティア養成支援事業(京都府教育委員会委託事業)として、講座を開催します。

平成二十年十二月

場所 長岡京市立図書館

内容 身近な科学あそび

詳細については、今後検討し、ご案内させていただきます。

▼ 相互協力委員会 ▲

平成二十年度相互協力委員会が平成二十年六月二十七日(金)府立図書館において開催されました。

主な内容として、京都府図書館総合目録関連では、府立図書館のシステム更新に向け、アンケートを実施していること、過去データ削除等の改善について、七月下旬に実施予定であることが報告されました。

相互協力委員会事業では、連絡協力車巡回コースについて、府立高校九校を新たに加え巡回を行っていること、十九年度相互貸借統計、二十年度相互貸借貸出制限資料一覧、職員研修等についてそれぞれ報告され、その他、相互貸借や図書館業務について情報交換がなされました。

今年度の会議としては、拡大相互協力委員会と実務担当者会議の開催を予定しています。

なお、平成十九年度相互協力実務担当者会議が平成二十年二月二十八日(木)府立図書館において開催(出席者三十九名)され、相互協力委員会事業や京都府図書館総合目録関連について説明、報告がされました。

▼ 広報委員会 ▲

平成二十年度第一回広報委員会を

六月六日(金)に府立図書館で開催し、今年度の発行計画と会報第七十六号の編集等を協議しました。今年度の発行は年三回とし、
・第七十六号 八月十五日
・第七十七号 十一月十五日(予定)
・第七十八号 三月十五日(予定)と決定しました。

編集子

今年度、広報委員会は新しいメンバーでスタートいたしました。

より一層充実した紙面づくりに委員全員一丸となって取り組んでいきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

さて、各図書館では利用促進のため、インターネット予約や携帯電話による予約サービスなど多くの取組が進められていますが、さらなるサービスの向上を図るため、各館が様々な情報を共有するとともに地域の拠点として情報発信していくことが大事ではないでしょうか。この会報がそのための一助になればと委員一同願っております。

平成20年8月1日付けで京都連協の役員に異動がありましたので、お知らせします。

旧			新		
職名	氏名	所属	職名	氏名	所属
理事	粟路 静夫	南丹市立図書館	理事	大西 敏夫	南丹市立図書館